

## 北岡明佳の研究業績リスト

### 著書

北岡明佳 (2003) トリックアイズ2 株式会社カンゼン(東京)

日本色彩学会(編) (2003) 色彩用語事典 東京大学出版会 執筆箇所  
「ネオンカラー効果」p365, 「ハーマン格子錯視」p369, 「ベナリー効果」 p426

北岡明佳 (2002) トリックアイズ 株式会社カンゼン(東京)

北岡明佳(監修) (2002) 動く!作れる!マジカル・アイ 宝島社(東京)

### 原著論文

Ashida, H., Sakurai, K. and Kitaoka, A. (in press) A new variant of the Ouchi illusion reveals Fourier-component-based processing. *Perception*,

Kitaoka, A., Pinna, B., and Brelstaff, G. (2004). Contrast polarities determine the direction of Café Wall tilts. *Perception*, **33**, 11-20.

Kitaoka, A., Gyoba, J., Kawabata, H., and Sakurai, K. (2001). Perceptual continuation and depth in visual phantoms can be explained by perceptual transparency. *Perception*, **30**, 959-968

Kitaoka, A., Gyoba, J., Kawabata, H., and Sakurai, K. (2001). Two competing mechanisms underlying neon color spreading, visual phantoms and grating induction. *Vision Research*, **41**, 2347-2354

Kitaoka, A., Pinna, B., and Brelstaff, G. (2001). New variations of spiral illusions. *Perception*, **30**, 637-646

Kitaoka, A., Gyoba, J., Sakurai, K., and Kawabata, H. (2001). Similarity

between Petter's effect and visual phantoms. *Perception*, **30**, 519-522

Kitaoka, A. and Ishihara, M. (2000). Three elemental illusions determine the Zöllner illusion. *Perception & Psychophysics*, **62**, 569-575.

Kitaoka, A., Gyoba, J., and Kawabata, H. (1999). Photopic visual phantom illusion: Its common and unique characteristics as a completion effect. *Perception*, **28**, 825-834.

Kitaoka, A. (1998). Apparent contraction of edge angles. *Perception*, **27**, 1209-1219.

Kitaoka, A. (1995). Effects of a shelter on open-field activity of rats (*Rattus norvegicus*) and mice (*Mus musculus*). *Japanese Psychological Research*, **37**, 201-209.

Fujita, O., Annen, Y., and Kitaoka, A. (1994). Tsukuba High- and Low-Emotional strains of rats (*Rattus norvegicus*): An overview. *Behavior Genetics*, **24**, 389-415.

Kitaoka, A. (1994). Defensive aspects of burrowing behavior in rats (*Rattus norvegicus*): A descriptive and correlational study. *Behavioural Processes*, **31**, 13-28.

Kitaoka, A. (1991). Emergence from home cage in rats (*Rattus norvegicus*) as a function of strain and sex. *Japanese Journal of Animal Psychology*, **41**, 28-33.

Kitaoka, A., and Fujita, O. (1991). Behavioral comparisons of the Tsukuba Emotional strains of rats (*Rattus norvegicus*) in three types of novel situations. *Behavior Genetics*, **21**, 317-325.

Kitaoka, A., and Fujita, O. (1991). A new type of soil material for a burrowing chamber for mice. *Behavior Research Methods, Instruments, & Computers*, **23**, 348-350.

北岡明佳・藤田統 (1990) ランウェイ, オープン・フィールドおよびI迷路の3つの場面におけるラットの行動比較 *心理学研究*, **61**, 241-246.

北岡明佳・藤田統 (1989) シェルター付きオープン・フィールドにおけるマウスの行動と「シェルター恐怖」 *動物心理学年報*, **39**, 1-11.

北岡明佳・藤田統 (1988) ラットとマウスの穴掘り行動に及ぼす情動性・性・照明条件の効果 *動物心理学年報*, **38**, 93-106.

## 論文 ( 審査なし )

北岡明佳 (2004) 21世紀初頭は錯視研究の時代となるか? *画像ラボ*, **15**(2), 26-29.

Kitaoka, A. (2003) The frame of reference in anomalous motion illusions and ergonomics of human fallacy. *Ritsumeikan Journal of Human Sciences*, **6**, 77-80.

(北岡明佳 (2003) The frame of reference in anomalous motion illusions and ergonomics of human fallacy. *立命館人間科学研究*, **6**, 77-80)

Kitaoka, A. and Ashida, H. (2003) Phenomenal characteristics of the peripheral drift illusion. *VISION*, **15**, 261-262.

北岡明佳 (2003) 動く錯視の分類 *電気通信大学大学院・ISシンポジウム -Sensing and Perception*, **10**, 67-71.

北岡明佳 (2002) 錯視の Awareness とクオリアを考える *基礎心理学研究*, **21**, 69-73.

北岡明佳 (2002) 新しい錯視を創る *心理学ワールド*, **18**, 21-24.

北岡明佳 (2001) 錯視とは? *映像情報メディア学会誌*, **55**, 366-367.

北岡明佳・佐藤孝行 (1999) カフェウォール錯視とその応用 *日本人間工学会第29回関東支部大会講演集*, 6-7.

- Kitaoka, A. and Watanabe, J. (1998) Binocular stereopsis of transparent figures. *Selection and Integration of Visual Information: Proceedings of the International Workshop on Advances in Research on Visual Cognition* (supported by Science and Technology Agency and National Institute of Bioscience and Human Technology), 265-268.
- 北岡明佳・佐藤孝行 (1998) 注意依存性ステレオキャプチャ *電気通信大学大学院・ISシンポジウム-Sensing and Perception*, 5, 72-79.
- 北岡明佳 (1997) 錯視図形のオーバービュー *VISION*, 9, 131-162.
- 北岡明佳 (1996) 錯視研究への神経生理学的アプローチ - Münsterberg錯視等について - 第2回錯視コロキウム・プロシーディングス(ワークショップ「錯視研究への多様なアプローチ」報告), 14-25. (立教大学)
- 北岡明佳 (1995) 神経生理学的に見た幾何学錯視の意義 第1回錯視コロキウム・プロシーディングス, 47-50. (都立大学)
- 北岡明佳・藤田統 (1991) ランウェイ・テストの構造とTsukuba情動系の行動 *筑波大学心理学研究*, 13, 67-71.
- 藤田統・安念保昌・北岡明佳・中津山英子・加藤宏 (1991) 餌制限条件下での野外フィールドにおけるラットの個体数変動と諸行動についての系統比較 *上武大学経営情報学部紀要*, 5, 1-14.
- 藤田統・加藤宏・安念保昌・増井誠一郎・北岡明佳・中津山英子 (1990) Tsukuba情動系ラットの野外フィールドにおける4年間の個体数の推移とそれに関する雄の性行動 *筑波大学心理学研究*, 12, 37-45.
- 北岡明佳・藤田統 (1989) 「強制場面」と「強制 - 自由場面」におけるラットの行動の比較 *筑波大学心理学研究*, 11, 35-41.
- 北岡明佳・藤田統 (1988) 両端部屋付き直線走路におけるTsukuba情動系ラットの行動 *筑波大学心理学研究*, 10, 69-78.

## 総説

- 北岡明佳 (2003) 21世紀初頭は錯視研究の時代となるか? 3D映像, 17(1), 26-29.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・渦巻きを見る脳の数学的テクニック 日経サイエンス, 31(10), 96-98.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・見えることもあれば見えないこともある心の補助線 日経サイエンス, 31(9), 98-100.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・工学的にはとらえきれない幻の光知覚 日経サイエンス, 31(8), 66-68.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・色彩知覚の知られざる不安定性 日経サイエンス, 31(7), 128-129.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・視覚の形態を哲学する手掛かり 日経サイエンス, 31(6), 94-95.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・止まったものが動いて見える不思議 日経サイエンス, 31(5), 96-97.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・市松模様で描き出す立体感 日経サイエンス, 31(4), 22-23.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・直線を湾曲させるトリック 日経サイエンス, 31(3), 96-97.
- 北岡明佳 (2001) 錯視のデザイン学 ・パソコン利用で変わる試し図の作成 日経サイエンス, 31(2), 134-135.

## 学位論文

- 北岡明佳 (1991) 生態場面と実験室場面におけるラットの情動性の研究

教育学博士号取得論文（筑波大学）

北岡明佳（1988） *ネズミの穴掘り行動 (burrowing behavior) を規定する要因の研究* 教育学修士号取得論文（筑波大学）

## 招待講演

北岡明佳（2003） ランチョンセミナー・周辺ドリフト錯視をデザインする（日本動物心理学会第63回大会・日本基礎心理学会第22回大会・つくば国際会議場（つくば市）・2003年10月31日～11月1日日）（発表日10月31日）

## 学会発表

北岡明佳（2004） 街角錯視（日本心理学会第68回大会ワークショップWS83・日本の風景・建築の中の錯視 エコロジカル・イリュージョンの世界・関西大学・2004年9月14日）

北岡明佳（2004） 錯覚とだまし（（社）日本心理学会「全国公開シンポジウム」In 仙台 嘘とだましの心理学・東北大学・2004年9月5日）

北岡明佳（2004） 錯視のゲシュタルトと美（美・感性・ゲシュタルト知覚に関するタスク・フォース・日本大学文理学部（東京）・2004年2月2日～3日・発表日2月3日）

北岡明佳・蘆田宏（2004） 新しい動く錯視：中心ドリフト錯視（日本視覚学会2004年冬季大会・工学院大学（新宿）・2004年1月26日～28日・発表日1月26日）

北岡明佳（2003） 動く錯視の分類（YPS2003・山口大学主催（山口県美祢郡秋芳町）・2003年9月26日～28日・発表日9月28日）

北岡明佳（2003） 渦巻き錯視の定量的研究 日本心理学会第67回大会発表論文集，pp.481.（日本心理学会第67回大会・東京大学（東京都文京区）・2003年9月13日～15日・発表日9月13日）

蘆田宏・北岡明佳 (2003) 鋸波状縞刺激における運動錯視 日本心理学会第67回大会発表論文集, pp.514. (日本心理学会第67回大会・東京大学(東京都文京区)・2003年9月13日～15日・発表日9月14日)

Ashida, H. and Kitaoka, A. (2003) A gradient-based model of the peripheral drift illusion. 26th European Conference on Visual Perception (ECVP2003), Paris, France, 2003/9/1-5, 9/3 poster publication.

北岡明佳・蘆田宏 (2003) 周辺視ドリフト錯視の現象的特性 (日本視覚学会2001年夏季大会・湘南国際村センター(逗子市)・2001年7月21日～7月23日・発表日7月21日)

北岡明佳 (2003) アニメーションしないアニメーション: 動く錯視 = ミニマルアニメーション 日本アニメーション学会第5回大会・京都造形芸術大学(京都市)・2003年6月28日～29日・展示日6月26日～29日)

Kitaoka, A. and Ashida, H. (2002) An anomalous motion illusion based upon signal delay. 25th European Conference on Visual Perception (ECVP2002), Glasgow, UK, 2002/8/25-29, 8/29 poster publication.  
(Kitaoka, A. and Ashida, H. (2002) An anomalous motion illusion based upon signal delay. Perception, 31, Supplement, p. 162)

Ashida, H., Kitaoka, A., and Sakurai, K. (2002) A Fourier approach to the Ouchi-type anomalous-motion illusion. 25th European Conference on Visual Perception (ECVP2002), Glasgow, UK, 2002/8/25-29, 8/25 poster publication.  
(Ashida, H., Kitaoka, A., and Sakurai, K. (2002) A Fourier approach to the Ouchi-type anomalous-motion illusion. Perception, 31, Supplement, p. 84)

Kitaoka, A. (2002) A classification of anomalous motion illusions. Visual Localization in Space-Time 2002, University of Sussex, Brighton, UK, 2002/8/22-24, 8/23 poster publication.

北岡明佳 (2002) 錯視研究から見た視覚のリアリティ (パネルディスカッション「視覚のリアリティ」(司会・前田太郎(東大)))・日本視覚

学会2002年冬季大会・工学院大学（新宿）・2001年1月21日～23日・発表日1月22日）（招待講演）

北岡明佳・蘆田宏（2002） 新型の動く錯視：ヘス効果による説明とプルフリッヒ効果との関係（日本視覚学会2002年冬季大会・工学院大学（新宿）・2001年1月21日～23日・発表日1月22日）

北岡明佳（2001） 錯視研究との関連から 日本基礎心理学会2001年度第2回フォーラム「視覚的アウェアネスとクオリア - 心理物理的手法からどう迫るか」（東北大学電気通信研究所（仙台市）・2001年12月16日）（招待講演）

北岡明佳（2001） 透明視の新しい説明：Metelliモデルの修正 日本心理学会第65回大会発表論文集，pp.187.（日本心理学会第65回大会・筑波大学（つくば市）・2001年11月7日～9日・発表日11月8日）

Kitaoka, A. (2001) A new theory of perceptual transparency explains neon color spreading. (Joint Swiss-Japanese Scientific Seminar: Visual Perception and Perceptual Processing applied to New Media Research, the Nara Hotel, September 25-28 (presentation on 25), 2001

北岡明佳（2001） Shape from contrast polarity（日本基礎心理学会第20回大会・関西学院大学（西宮市）・2000年12月2日～3日・発表日12月2日）

北岡明佳（2001） 色のホワイト効果（日本視覚学会2001年夏季大会・湘南国際村センター（逗子市）・2001年7月30日～8月1日・発表日7月31日）

北岡明佳・石原正規・市原茂（2001） 運動残効の初期に生じるジター錯視（日本視覚学会2001年冬季大会・工学院大学（新宿）・2001年1月22日～24日・発表日1月22日）

北岡明佳・行場次朗・櫻井研三（2000） 2次ファントムにおける透明視の役割（日本基礎心理学会第19回大会・立命館大学（京都市）・2000年12月2日～3日・発表日12月2日）



北岡明佳・佐藤孝行（2000） 壁紙錯視におけるdepth shiftとランダムドットステレオキャプチャの比較（第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会・合同大会・横浜みなとみらい21・パシフィコ横浜（横浜市）・2000年9月4日～6日・発表日9月4日）

（Kitaoka, A. and Sato, T. (2000) Two types of depth shifts in the wallpaper illusion: their spatial and temporal characteristics and the relationship to stereo capture. *Neuroscience Research*, 24, Supplement, P-127, S75）

眞田尚久・出澤正徳・北岡明佳（2000）ランダムドットステレオグラム（RDS）における非対応領域の奥行き知覚（第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会・合同大会・横浜みなとみらい21・パシフィコ横浜（横浜市）・2000年9月4日～6日・発表日9月4日）

Pinna, B., Kitaoka, A., and Manca, S. (2000). New visual illusory distortions originated by orientation polarities through luminance. 23rd European Conference on Visual Perception (ECVP99), Groningen, Netherlands, 2000/8/27-31, 8/29 poster publication.

（Pinna, B., Kitaoka, A., and Manca, S. (2000). New visual illusory distortions originated by orientation polarities through luminance. *Perception*, 29, Supplement, p. 59）

北岡明佳・佐藤孝行（2000）Ouchi illusionの分類（日本視覚学会2000年夏季大会・河口湖畔サニーデビレッジ・2000年7月24日～26日・発表日7月？日）

Kitaoka, A., Gyoba, J. Kawabata, H. (2000) The neon color spreading illusion as a variation of visual phantoms. The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), 2000/4/30-5/5, 5/1 poster publication.

(*Investigative Ophthalmology and Visual Science*, 2000, 41(4), S228, Abstract nr 1197)

Sakurai, K., Kawabata, H., Sasaki, H. and Kitaoka, A. (2000) Effects of occluder luminance on appearance of moving visual phantoms induced by second-order components. The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), 2000/4/30-5/5, 5/1 poster publication.

(*Investigative Ophthalmology and Visual Science*, 2000, 41(4), S228,

Abstract nr 1199)

Kitaoka, A., Gyoba, J. and Sakurai, K. (2000) Visually interpolated contours can be described by Bezier curves. 第26回生理学研究所国際シンポジウム「Neural Mechanisms of Visual Perception and Cognition」 2000/3/8-10, 3/10 poster publication.

北岡明佳・佐藤孝行 (2000) 新しい運動錯視・Pinna-Brelstaff効果 (第8回日本人間工学会システム連合大会(八王子)・2000年3月16日~3月18日・発表日3月17日)

北岡明佳・佐藤孝行 (2000) 渦巻き錯視とPinna-Brelstaff効果の関係 (日本視覚学会2000年冬季大会・工学院大学(新宿)・1999年1月24日~26日・発表日1月25日)

北岡明佳・佐藤孝行 (2000) カフェウォール錯視の展開 (第9回知覚研究会・日本大学歯学部(御茶ノ水)・1999年1月21日のみ・発表日1月21日)

北岡明佳・佐藤孝行 (1999) 壁紙錯視とステレオキャプチャ (Kyushu University Seminar of Cognition・1999年11月24日・発表日11月24日)

北岡明佳・佐藤孝行 (1999) カフェウォール錯視とその応用 シンポジウム「錯覚とその応用」 (日本人間工学会第29回関東支部大会・財団法人鉄道総合技術研究所・1999年11月20日~21日・発表日11月20日)

Kitaoka, A. and Sato, T. (1999) The spiral illusion via the Café Wall illusion. 22th European Conference on Visual Perception (ECVP99), Trieste, Italy, 1999/8/22-26, 8/25 poster publication.  
(Kitaoka, A. and Sato, T. (1999) The spiral illusion via the Café Wall illusion. Perception, 28, Supplement, p. 120)

北岡明佳・佐藤孝行 (1999) ランダムドット面へのステレオキャプチャ (日本視覚学会1999年夏季大会・河口湖畔サニーデビルレッジ・1999年7月26日~28日・発表日7月26日)

北岡明佳・佐藤孝行 (1999) 壁紙錯視における面形成を制御する3つの要

因 (第22回日本神経科学大会・アジア太平洋トレードセンター(大阪市)・1999年7月6日～8日・発表日7月6日)

(Kitaoka, A. and Sato, T. (1999) Three factors controlling surface formation in the wallpaper illusion. *Neuroscience Research, Supplement*, 23, S531)

北岡明佳・佐藤孝行 (1999) カフェウォール錯視の渦巻き錯視 (日本視覚学会1999年冬季大会・工学院大学(新宿)・1999年1月25日～27日・発表日1月26日)

北岡明佳・佐藤孝行 (1998) 一種の方位錯視: エッジ角による線分の方位の誘導 人間工学会「感性情報・官能評価部会」第1回研究会・1998年10月17日・発表日10月17日)

北岡明佳・行場次朗・川畑秀明・佐藤孝行 (1998) 「明所視」ファントムの研究 (日本視覚学会1998年夏季大会・河口湖畔サニーデビレッジ・1998年7月27日～29日・発表日7月28日)

Kitaoka, A. and Watanabe, J. (1997) Binocular stereopsis of transparent figures. *International Workshop on Advances in Research on Visual Cognition*・通商産業省工業技術院(生命工学工業技術研究所主催) Poster session (1997年12月9日～11日・発表日12月9日及び10日)

北岡明佳 (1997) 錯視の神経メカニズム (日本視覚学会1997年夏期研究会・テーマ別ミーティング講演・河口湖畔サニーデビレッジ・1997年7月28日～30日・講演日7月30日)

Kitaoka, A. (1997) The pincushion grid illusion: a kind of the neon spreading illusion? *Neuroscience Research, Supplement* 21, S288 (ピンクッション格子錯視はネオン拡散錯視の一種か? 日本神経科学学会大会第20回大会・仙台国際センター(東北大学主催)・1997年7月16日～18日・発表日7月16日)

北岡明佳 (1996) 錯視研究への神経生理学的アプローチ - Münsterberg錯視等について - 日本心理学会第60回大会(立教大学)ワークショップ「錯視研究への多様なアプローチ」において話題提供 (1996年9月10日～12日・発表日9月10日)

渡辺譲二・北岡明佳 (1996) サル下側頭野神経の図形応答とサルの図形弁別能力 (第73回日本生理学会大会・福井医科大学・1996年4月3日～5日・発表日4月3日)

北岡明佳・渡辺譲二 (1996) 図形刺激を「予期」するサル下側頭野ニューロン (第73回日本生理学会大会・福井医科大学・1996年4月3日～5日・発表日4月3日)  
(Kitaoka, A., and Watanabe, J. (1996) Monkey inferotemporal neurons which behave as if they 'expected' the onset of shape stimuli. *Japanese Journal of Physiology*, **46**, Supplement 2, S594)

北岡明佳 (1995) ポンゾ錯視の新説明：mental line仮説 日本心理学会第59回大会発表論文集, pp.574. (琉球大学・1995年10月11日～13日)

北岡明佳・渡辺譲二 (1994) サルのchange detection課題時の弁別困難な図形対の分類 (第54回日本動物心理学会大会・北海道大学・1994年8月9日～10日・発表日8月9日)

渡辺譲二・北岡明佳 (1994) DNMS課題遂行中のサルの図形弁別能力と下部側頭野ニューロン群の活動の対応 (第71回日本生理学会大会・香川医科大学・1994年3月24日～26日・発表日3月25日)

Watanabe, J., and Kitaoka, A. (1993) Behavioral performance in pattern discrimination and pattern selectivity of inferior temporal neurons of monkey. *Society for Neuroscience Abstract*, **19**, pp.975. (Washington Convention Center: 1993/11/7-12)

Watanabe, J., and Kitaoka, A. (1993) Behavioral performance and inferotemporal neuronal responses of monkeys in pattern discrimination. *Japanese Journal of Physiology*, **43**, Supplement 2, S257. (第70回日本生理学会大会・山梨大学・1993年4月1日～3日・発表日4月2日)

渡辺譲二・北岡明佳 (1993) DNMS課題におけるサル下部側頭野ニューロン活動 日本心理学会第57回大会発表論文集, pp.376. (早稲田大学所沢キャンパス・1993年9月8日～10日)

- 北岡明佳・渡辺譲二（1993） DNMS課題におけるサルの図形弁別能力：回  
転図形対と四角・クロス対の弁別困難性 *日本心理学会第57回大会発表  
論文集*, pp.375. (早稲田大学所沢キャンパス・1993年9月8日～10日)
- 北岡明佳・渡辺譲二（1992） 回転図形弁別の困難性：サルとヒトのDNMS  
課題における反応時間 *日本心理学会第56回大会発表論文集*, pp.678.  
(同志社大学今出川キャンパス・1992年9月9日～11日)
- 北岡明佳・藤田統（1991） Effects of illumination and cycle on emotionality  
*日本心理学会第55回大会発表論文集*, pp.450. (東北大学・1991年10月29  
日～31日) (抄録英語)
- 北岡明佳・藤田統（1990） 穴居可能場面におけるTsukuba情動系とLong-  
Evans系ラットの行動比較 *日本動物心理学会第50回大会発表* (早稲田  
大学・1990年9月16日)
- 北岡明佳・藤田統（1990） ランウェイ・テストにおけるラットの移動活動  
量の構造 *日本心理学会第54回大会発表論文集*, pp.751. (東京都立大  
学・1990年6月1日～3日)
- 北岡明佳・藤田統（1989） すくみ反応と逃避反応からみた情動性の研究  
*日本心理学会第53回大会発表* (筑波大学・1989年11月30日)
- 北岡明佳・藤田統（1989） 穴居可能場面におけるラットとマウスの活動パ  
ターンの研究 *日本動物心理学会第49回大会発表* (学習院大学・1989年6  
月30日)
- 北岡明佳・藤田統（1988） オープン・フィールドとランウェイにおける  
Wistar-Imamichi系とF344系ラットの行動の比較 *日本心理学会第52回大  
会発表* (広島大学・1988年10月10日)
- 北岡明佳・藤田統（1988） Tsukuba情動系ラットの穴掘り行動の研究 *日  
本動物心理学会第48回大会発表* (京都大学・1988年6月19日)
- 北岡明佳・藤田統（1987） Tsukuba情動系の行動を規定する要因の分析  
*日本心理学会第51回大会発表* (東京大学・1987年10月13日)

北岡明佳・藤田統 (1987) Tsukuba情動系ラットと近交系マウスの穴掘り行動 - 新しい土材を用いて - 日本動物心理学会第47回大会発表(上智大学・1987年7月23日)

## 研究補助金

(研究者番号 70234234)

平成16・17・18年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(研究代表者・東山篤規) 「視覚, 触覚, 自己受容覚による方向の知覚」 課題番号16530480 (全体 平成16年度 90万円、平成17年度 70万円、平成18年度 50万円)(分担者 古賀一男・下野孝一・尾田政臣・北岡明佳)

平成15・16・17年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)(研究代表者・北岡明佳) 「進出色・後退色研究の新たな展開: 軸上色収差説を修正して復活させる」 課題番号15330159 (平成15年度 640万円、平成16年度 150万円、平成17年度 180万円)

平成14年度 中山隼雄科学技術文化財団 研究助成「動く錯視を用いたインターネットエデュテインメント」(助成金 60万円)

平成14・15年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)(研究代表者・行場次朗) 「心理物理学的手法による視覚的アウェアネスとクオリアの解析」 課題番号14310036 (分担金 平成14年度 80万円 平成15年度 50万円)

平成14・15・16・17年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)(研究代表者・松田隆夫) 「「基準」の多様性に伴うヒューマンファラシーの諸相」 課題番号14310045 (平成14年度 130万円 平成15年度 220万円 平成16年度 210万円 平成17年度 110万円)

平成13・14年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(2) 「視覚的ファントムとステレオキャブチャにおける透明視と遮蔽視の役割」 課題番号13610104 (平成13年度 250万円 平成14年度 70万円)

平成11・12年度科学研究費補助金 奨励研究(A) 「視覚的ファントムとステレオキャプチャの空間的・時間的關係」 課題番号11710047 (平成11年度 180万円 平成12年度 50万円)

平成11・12年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(1) (研究代表者・行場次朗) 「視覚的補完におけるアウェアネスと外界構造推定過程の解析」 課題番号11410019 (分担金 平成11年度 40万円 平成12年度 50万円)

## 賞

1998年度上武学術奨励賞(筑波大学心理学系) 1999年8月28日受賞

下記論文に対して

Kitaoka, A. (1998). Apparent contraction of edge angles. *Perception*, **27**, 1209-1219.

## 出品歴

北岡明佳 (2004) 北岡明佳錯視作品展 (社)日本心理学会「全国公開シンポジウム」In 仙台 嘘とだましの心理学 に併設(東北大学マルチメディア教育研究棟・2004年9月5日)

北岡明佳 (2004) 静岡静岡科学館る・く・る の開設に協力

北岡明佳 (2004) 錯視図形作品?点 「『ふしぎ!不思議?』展」(大阪府立大型児童館ビッグバン・2004年4月13日~5月30日)

北岡明佳 (2004) 錯視作品14点 「新春サイエンススクエア」(国立科学博物館・2004年1月2日~1月7日)

北岡明佳 (2003) 錯視図形作品8点 特別展「わくわくファンタジーワールド」(福岡県青少年科学館・2003年2月15日~4月6日)

北岡明佳 (2003) 錯視図形作品10点 春休み特別企画「視覚のふしぎ」(あ

すたむらんど徳島・2003年3月20日～4月7日)

北岡明佳 (2002) 錯視図形作品10点 「ふ・し・ぎミュージアム」・錯視コーナー (愛媛県総合科学博物館・2002年4月27日～5月26日)

北岡明佳 (2000) 錯視図形作品10点前後 「さっかく・さくしの不思議館」 (盛岡市子ども科学館・福島市児童文化センター・倉敷科学館・2000年7月～8月)

北岡明佳 (2000) 錯視図形作品8点 「びっくり・錯覚・不思議体験」 (新潟県立自然科学館・2000年7月22日～8月31日)

北岡明佳 (1999～2000) 錯視図形作品8点 超感覚ミュージアム展 (福岡(イムズ)・東京(松屋銀座)・札幌(丸井今井)・神戸(大丸)・仙台(アエル)・ハウステンボス(予定))

北岡明佳 (1999) 錯視図形作品4点 「だまされて楽しい「アイトリック・ワールド」・錯覚の不思議展」 (福井原子力センター・1999年8月24日～9月12日)

北岡明佳 (1999) 錯視図形作品14点 ・夏休み特別イベント「ゴーゴー！見らくるワールド！！」・錯視コーナー (日立シビックセンター科学館・1999年8月7日～22日)

北岡明佳 (1998) 錯視図形作品6点 「東京都立大学学園祭・心理学研究室展」 (東京都立大学・1998年10月?)

北岡明佳 (1998) 錯視図形作品10点 「たんけん！超不思議館」・錯視コーナー (愛媛県総合科学博物館・1998年7月～8月)

## 錯視図形作品を展示してあるホームページ

北岡明佳の錯視のページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~akitaoka/>



錯視の会

<http://humanities.lit.nagoya-u.ac.jp/~illusion/>

都立大学心理学研究室

<http://psywww.human.metro-u.ac.jp/sakusi/>

秋田大学心理学研究室

<http://www.akita-u.ac.jp/~kmori/>

所属学会

日本心理学会 1987年～

日本動物心理学会 1987年?～

日本生理学会 1991年?～2002

日本神経科学会 1995年?～

日本視覚学会 1997年～

日本アニメーション学会 2000年～

日本基礎心理学会 2000年～

ARVO 2000年～

## 教育歴 (年号順)

1997年( ? ) 4月 ~ 2001年3月 専門学校社会医学技術学院・非常勤講師 (生理学I)

2001年4月 ~ 立命館大学文学部心理学科・助教授 (人文総合科学インスティテュート「人間と情報」兼務)

2001年度担当科目

認知科学概説I・認知科学特殊講義II・認知科学実験実習I・II・人文総合科学演習I・II・卒業研究

2002年度担当科目

知覚心理学・心理学I JA・JB・心理学研究法II・心理学基礎実験実習・認知科学実験実習II・人文総合科学演習I・II・卒業研究

2002年9月3日 ~ 6日

滋賀大学教育学部集中講義「行動科学」

2003年度担当科目

知覚心理学・心理学研究法II・感覚情報処理論・心理学基礎実験実習・心理学特殊実験実習・心理学演習I (人文総合科学演習II)・卒業研究

2004年度担当科目

知覚心理学・感覚情報処理論・心理学基礎実験実習・心理学特殊実験実習・心理学演習I (心理学演習II)・卒業研究・大学院特別研究

2004年前期・後期 京都大学人間総合学部・非常勤講師 (心理学基礎論)